

目白大学人文学研究

第 2 号

目 次

寛容について—スピノザとロックの場合—	工 藤 喜 作	1
『兵法家傳書』에 있어서 '평상심'과 '방심' — 마음의 억제와 해방 —	加 藤 純 一	15
文化社会学と実在社会学		
— シェーラー「知識社会学」研究序説 —	飛 田 満	29
鈴木貫太郎と東条英機		
— 大日本帝国軍人たちの政治哲学 —	石 井 貫太郎	41
ヒトラーとドイツ外務省の同盟構想	堀 内 直 哉	53
地域経済統合の再考—EU型とメルコスール型—	廣 田 政 一	65
社会的企業サンダーランドの事業展開		
— 地域社会の再生を目指して —	中 川 亮 子	81
「ニュースステーション」が伝えた「二風谷ダム」報道		
— ニュース・ドキュメンタリーにおける映像テクストの分析を中心に —	日 吉 昭 彦	97
『癖者ぞろい』研究(1)—演出家ブレインワーム—	久保寺 昌 宏	113
『ディジー・ミラー』にみる人間関係	岡 田 慶 子	119
「～テクル」の表現価値	山 西 正 子	131
The Book of Tea における英語の特徴		
— 岡倉天心の詩的作意 —	東 郷 登志子	143
翻訳と言語学の接点		
— 英語・フランス語における冠詞の総称的用法の考察 —	関 口 智 子	159
日本学生的汉语病句辨析	竹 中 佐英子	171